

自立活動 学習指導案

単元名 「三つの活動をやりとげよう」

令和5年10月
指導者 河内 英恵

I 単元の構想

1 単元観

対象生徒Aは自閉的傾向が強く、活動に集中できなかつたり、取り組めなかつたりすることが多い。さらには、他害行為や自傷行為などの二次的な問題行動に及ぶことが増えてきている。一方で、学校生活の中で繰り返される決まった活動には、落ち着いて取り組むことができる。また、よい関係を築けている教師や他生徒とは関わりを楽しむことができる。これらのことから、生徒Aは、活動や活動環境に見通しをもつことで、落ち着いて活動に取り組むことができると考えた。このことを足掛かりに、まず自立活動において生徒Aが取り組める活動を増やしていきたいと考えた。

特別支援学校教育要領学習指導要領解説 自立活動編第6章2(1)情緒の安定に関することでは、「情緒の安定を図ることが困難な幼児児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること」が示されている。また2(2)状況の理解と変化への対応に関することでは、「場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けること」が示されている。

生徒Aの自立活動においては、生徒Aが安定した情緒の下で、活動における諸条件の変化に対応して取り組めるようにすることが求められる。自立活動における個別の学習において、整えられた活動環境、人的環境の中で活動に取り組めるよう諸条件を調整・工夫することで、生徒Aは1単位時間の活動に見通しをもって取り組むことができるようになり、それを繰り返すことで十分に見通しをもって自ら取り組めるようになると考える。さらに、このような経験を積み重ねることで、やがては自立活動以外のどんな活動においても、活動環境を整えることで同様に取り組めるようになると考えた。

1学期の自立活動では、生徒Aの自立活動への目的意識や意欲を高められるよう、メモ帳づくりの活動に取り組んできた。この活動に繰り返し取り組むことで、やがて自ら取り組めるようになり、活動を終わると自分から教師に「できた」と伝えてくるようになった。そのタイミングが人にメモ帳を渡しに行ったときではなく、メモ帳を自分で作り終えたときであることから、生徒Aは自分で組み立てたり作成したりすることができた際に達成感をもっていると考えた。その他、活動内容、活動手順、活動環境の構造化の仕方、活動数、活動量、支援する教師、同じ場所で活動する他生徒の人数・組み合わせ、活動場所などの諸条件を、生徒Aの自立活動での様子の記録を基に分析した結果、生徒Aにとって見通しがもちやすく、いくつかの手順があり、できたことが分かりやすい活動を設定することを、授業を構成する際の条件とした。

これらの条件を踏まえ、本単元では自ら取り組めるようになったメモ帳づくりに、生徒Aの食への興味関心が高いことからタレ瓶の組み立て、ハンバーガー模型の組み立てを加えて、三つの活動を設定する。

『メモ帳づくり』では1学期から続けていることを発展させた、①裁断機で紙を切る②クリップで止める③表紙をつける④表紙にシールを貼るという四つの手順で取り組む。『タレ瓶の組立』では、①タレ瓶容器と蓋を手取る②タレ瓶の蓋を閉める③指定された箱に入れる、という三つの手順で取り組む。『ハンバーガー模型の組立』では、①具材(6種類)を順に重ねる②完成したハンバーガー模型を箱に入れる③指定されたケースに入れる、の三つの手順で取り組む。

生徒Aが落ち着いて、集中して活動に取り組むことができるよう、課題は1活動15分程度で終わらせる量を設定する。また、活動の手順に従って、教材や道具を机上の左から右に順番に配置し、構造化を図ることで、見通しをもって自ら課題に取り組めるようにする。生徒Aの成長を見ながら言葉かけや手本を見せるなどの支援を減らしていくことで、最終的には教材の準備、活動、教材の片づけまで自ら取り組めるようにしていく。

2 研究との関わり

本研究では、活動の様子を記録・分析し、活動環境などの諸条件を調整・工夫することで、自閉的傾向が強い生徒が自立活動に十分に見通しをもち、自ら取り組めるようになることを検証している。また、自立活動だけでなく、やがて学校生活全般において、活動に取り組める場面を増やしていくことにもつなげていきたいと考えている。

研究上の手立てとして、本単元では活動環境の構造化を行う。活動の手順に沿って、教材や道具を机上の左から右に順番に配置することで生徒Aが一つの活動に見通しをもって自ら課題に取り組めるようにする。また、活動ごとに教材を箱の中に入れ、これから取り組む活動の箱を机の左に、終わった活動の箱を机の右に置くようにすることで、活動の数・進み具合が見通せるようにする。それぞれの活動の準備から片付けまでの手順を確実に理解し、3つの活動に繰り返し取り組み、成功体験を積み重ねることで、一単位時間の始まりから終わりまでの見通しをもつことができ、生徒Aが「自分でできる」と実感できるようになり、自らやりきることに繋がると考える。

併せて、生徒ができたことを、振り返りの場面で教師が認めることで、生徒の「できた」実感を高め、次の活動への意欲を高めることに繋がるだろう。

本単元を含め、自立活動の各単元において、できるようになった活動や、できた時の活動環境、教室環境、指導する教師や同じ場で活動する他生徒等の人的環境などの条件について、変容を注意深く見とりながら記録し、生徒Aの成長の様子を別途作成した生徒Aの目指す活動に取り組む姿の段階表に照らし合わせながら、活動量を増やす、活動内容を発展させる、環境条件を広げる、自立活動で有効だった活動環境の構造化を他教科の学習に取り入れるなどして汎化させていく。

3 単元（題材）の目標及び児童（生徒）の実態

生徒	目標 【指導目標を達成するために必要な項目】	生徒の実態
A (中学部 3年)	<ul style="list-style-type: none"> 1 単位時間の活動に見通しをもち、自ら取り組みやり遂げることができる。 < 2 心理的な安定(1)(2) > 	<ul style="list-style-type: none"> 自閉的傾向が強く、環境の変化や状況に変化に不安定になりやすいが、環境を整えたり、わかりやすくしたりすることで、落ち着いて学習活動に取り組むことができることもある。 写真や絵カードで活動の見通しをもつことができる。また、見本を提示することで、写真や絵カードがなくても手順を理解して活動に取り組めることもある。 興味の移り変わりが早く、集中力が続かない。 手先はやや不器用である。親指と人差し指の力でつまむなどの動きは力の入れ方が難しいという思いが強くなり、苦手意識をもちやすい。 1学期の自立活動より、左から右に工程が流れる活動へ見通しを持つ事ができた。

4 評価規準

A	<ul style="list-style-type: none"> ハンバーガー模型の組み立てを理解し、自ら取り組んでいる。 三つの活動に、決めた数だけ取り組んでいる。
---	---

5 指導及び評価の計画（全6時間：本時 第5時間）

過程	時間	■ねらい □学習活動	◆評価項目<方法【自立活動項目】> 〔記〕：記録に残す評価

つ か む	1 2	<p>■ハンバーガー模型の組立を理解できる。</p> <p>□タレ瓶の組立をする。(20個)</p> <p>(1) タレ瓶容器と蓋を手にする。</p> <p>(2) タレ瓶の蓋を閉める。</p> <p>(3) 指定された箱に入れる。</p> <p>□ハンバーガー模型の組立をする。</p> <p>(1) 具材(6種類)を順に重ねる</p> <p>(2) 完成したハンバーガー模型を箱に入れる</p> <p>(3) 指定されたケースに入れる</p> <p>□メモ帳づくりをする。(2部)</p> <p>(1) 裁断機で紙を切る</p> <p>(2) クリップで止める</p> <p>(3) 表紙をつける</p> <p>(4) 表紙にシールを貼る</p> <p>〔めあて〕 手順通りに、ハンバーガー模型を組み立てよう。</p>	<p>◆〔記〕見本をみながら活動に取り組んでいる。</p> <p><観察(2(2))></p>
追 及 す る	3 4	<p>■自らハンバーガー模型の組立に取り組むことができる。</p> <p>□タレ瓶の組み立てをする。(20個)</p> <p>(1) タレ瓶容器と蓋を手にする。</p> <p>(2) タレ瓶の蓋を閉める。</p> <p>(3) 指定された箱に入れる。</p> <p>□ハンバーガー模型の組立をする。(10個)</p> <p>(1) 具材(6種類)を順に重ねる</p> <p>(2) 完成したハンバーガー模型を箱に入れる</p> <p>(3) 指定されたケースに入れる</p> <p>□メモ帳づくりをする。(2部)</p> <p>(1) 裁断機で紙を切る</p> <p>(2) クリップで止める</p> <p>(3) 表紙をつける</p> <p>(4) 表紙にシールを貼る</p> <p>〔めあて〕 自分で、ハンバーガー模型を組み立てよう。</p>	<p>◆〔記〕手順に従って、活動に取り組んでいる。</p> <p><観察(2(2))></p> <p>◆〔記〕状況の変容を受け入れ、落ち着いて課題に取り組んでいる。</p> <p><観察(2(1))></p>
ま と め る	5 6	<p>■タレ瓶の組立、ハンバーガー模型の組立、メモ帳作りの三つの活動に、自ら取り組むことができる。</p> <p>□タレ瓶の組立をする。(20個)</p> <p>教材・道具の準備をする。</p> <p>(1) タレ瓶容器と蓋を手にする。</p> <p>(2) タレ瓶の蓋を閉める。</p> <p>(3) 指定された箱に入れる。</p> <p>教材・道具の片付けをする。</p> <p>□ハンバーガー模型の組立をする。(10個)</p> <p>教材・道具の準備をする。</p> <p>(1) 具材(6種類)を順に重ねる</p> <p>(2) 完成したハンバーガー模型を箱に入れる</p> <p>(3) 指定されたケースに入れる</p> <p>教材・道具の片付けをする。</p> <p>□メモ帳づくりをする。(2部)</p>	<p>◆〔記〕三つの課題に自ら、最後まで取り組んでいる。</p> <p><観察(2(1)(2))></p>

	<p>教材・道具の準備をする。</p> <p>(1) 裁断機で紙を切る</p> <p>(2) クリップで止める</p> <p>(3) 表紙をつける</p> <p>(4) 表紙にシールを貼る</p> <p>教材・道具の片づけをする。</p>	
	<p>〔本時のめあて〕</p> <p>タレ瓶、ハンバーガー、メモ帳づくりの三つの活動を、最後までがんばろう。</p>	

II 第5時の学習

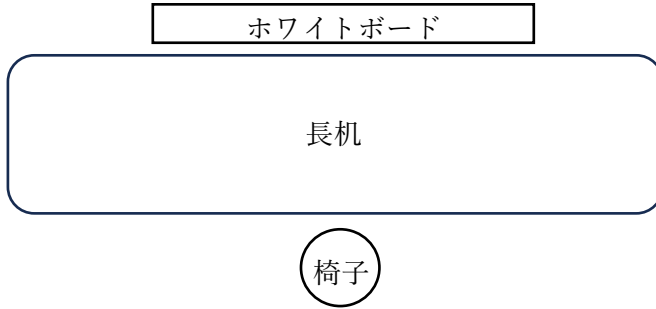
1 ねらい 三つの活動に、自ら最後まで取り組むことができる。

2 展開

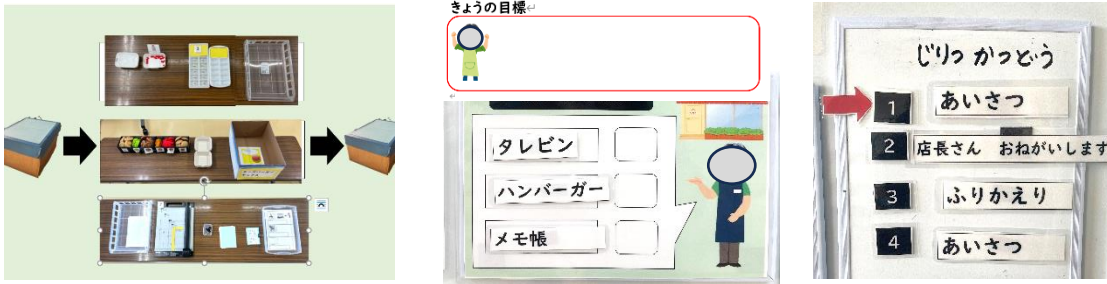
主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時の活動を知る。(導入① 2分)</p> <p>S:今日は、タレ瓶の組立、ハンバーガー模型の組立、メモ帳づくりをするのだな。</p>	<p>○本時で取り組む三つの活動について、カードを提示しながら、説明する。</p>
<p>2 本時のめあてをつかむ。(導入② 3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて></p> <p>タレビン、ハンバーガー、メモ帳づくりの三つの活動を、最後までがんばろう。</p> </div> <p>S:今日の三つの活動を自分で、最後まで取り組むのだな。</p> <p>S:全部できそうぞ。同じ流れた。</p>	<p>○本時のめあてとして、タレ瓶の組立、ハンバーガー模型の組立、メモ帳づくりの三つの活動に、自ら最後まで取り組むことを伝える。</p>
<p>3 三つの活動に取り組む。(展開 40分)</p> <p>(1) タレ瓶の組立をする。(20個)</p> <p>教材・道具の準備をする。</p> <p>① タレ瓶容器と蓋を手取る。</p> <p>② タレ瓶の蓋を閉める。</p> <p>③ 指定された箱に入れる。</p> <p>教材・道具の片付けをする。</p> <p>(2) ハンバーガー模型の組立をする。(10個)</p> <p>教材・道具の準備をする。</p> <p>① 具材(6種類)を順に重ねる</p> <p>② 完成したハンバーガー模型を箱に入れる</p> <p>③ 指定されたケースに入れる</p> <p>教材・道具の片付けをする。</p> <p>(3) メモ帳づくりをする。(2部)</p> <p>教材・道具の準備をする。</p> <p>① 裁断機で紙を切る</p> <p>② クリップで止める</p> <p>③ 表紙をつける</p> <p>④ 表紙にシールを貼る</p> <p>教材・道具の片づけをする。</p> <p>S:この位置で始めるのはわかってきた。</p>	<p>○気持ちが落ち着かず、すぐに活動に取り掛かることが難しい場合には、生徒に気持ちを聞き、切り替えるまで待つてから、次の活動へ促す言葉掛けをする。</p> <p>○なるべく一人で活動できるように、少し離れた位置から活動を見守り、必要に応じて支援を行う。</p> <p>○活動の途中で気持ちが不安定になってきた時や、活動への気持ちが向かないときは、生徒と相談して、できたところまでで区切るようにする。</p> <p>◎自ら活動の準備ができるよう、ホワイトボードに机上の教材配置図写真を掲示する。</p> <p>◎一つの活動に見通しをもって自ら課題に取り組めるよう、活動の手順に沿って、教材や道具を机上の左から右に順番に配置する。</p> <p>◎1単位時間の活動の数や活動の進み具合に見通しがもてるよう、活動ごとに教材を箱の中に入れ、これから取り組む活動の箱を机の左に、終わった活動の箱を机の右に置く。</p>

S：この手順なら、最後までできそうだ。	◎裁断機に紙を置く位置を示すテープを貼る。 (メモ帳づくり)
4 本時を振り返り、次時への見通しをもつ。 (終末 5分) (1) できた活動に『できた』カードを貼る。 (2) メモ帳を渡した教師から、どんな気持ちのカードをもらったかを確認する。 S：三つあったけど、自分で最後までできたぞ。 S：褒められて、うれしいな。	○めあてについて、できたことに達成感もてるように、生徒の取組の様子を具体的に伝えながら称賛する。 ◆評価項目 三つの活動に自ら、最後まで取り組んでいる。 <観察(2(1)(2))>

3 教室内配置図



4 ホワイトボード掲示物



5 各課題の机上配置

(1) タレピンの組立



(2) ハンバーガー模型の組立



(3) メモ帳作り

